

挨拶

全日本中学校長会会長 榎本智司

第67回全日本中学校長会研究協議会宮城大会が、「つよく生き抜く！未来を創る希望の教育 伊達な国から」を大会スローガンに掲げ、大会主題である「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」のもと、2日間にわたる熱心な研究協議、浅田和伸氏の文部科学省講話、そして中村雅俊氏の記念講演等が行われました。

また、アトラクションとして石巻市立雄勝中学校の皆さんの力強い、迫力のある「復興輪太鼓」の演奏、仙台市立の6校の生徒の皆さんの「Believe」「仲間とともに」2曲の美しいハーモニーを響かせた合唱は、中学生の復興への力強い決意を感じさせてくれました。そして、間もなくこの大会も幕を閉じようとしています。

今大会は、東日本大震災後、初めて東北地区で開催された大会でした。東日本大震災の被災3県の先生方は勿論ですが、今年は、地震や台風、火山の噴火等で校長先生方の中にも被災された方々がいらっしゃいます。そのことに思いを馳せたとき、改めて防災教育の大切さと、私たち校長は、たとえどのような状況に置かれても積極果敢に学校経営に邁進しなければならないという思いを新たにしましたところですが、被災された皆様方にお見舞い申し上げるとともに、被災地の一日も早い復興をご祈念申し上げます。

さて、今年度も6月第二週から、この間全国6つの地区で中学校長会研究協議会が開催されてきましたが、今大会の閉会式を迎え、名実ともにその集大成にふさわしい大会であったと思います。

最近では、第4次産業革命ともいわれる、進化した人口頭脳が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予想がなされています。また、人口頭脳の急速な進化が、人間の職業を奪うのではないかと、学校で教えていることは時代が変化したら通用しなくなるのではないかとといった不安の声もあります。

このような時代にあって、私たち校長に求められているのは、これまでの学校教育の中で育まれてきたものとは異なる全く新しい力の育成ではありません。学校教育が長年その育成を目指してきた、変化の激しい社会を生きるために必要な力である「生きる力」や、その中でこれまでも重視されてきた知・徳・体の育成ということの意義を、加速度的に変化する社会の文脈の中で改めてとらえ直し、しっかりと発揮できるようにしていくことと考えています。

私たち校長に課せられた使命はたいへん大きなものがあります。そして、私たち校長は、その使命を全うしていくことを喜びとし、生きがいとしている人々であると、私は信じています。今大会においては、その開催趣旨であります、「これまでの研究成果を踏まえ、全国中学校長の英知と創意を結集して、主題に迫る具体的な方策を究明し、我が国の中学校教育の一層の充実発展を期する」ということが実現できたのではないのでしょうか。

私たちは、明日から再びそれぞれの学校へと戻っていきますが、この2日間、ここ宮城県仙台市に集い、研究協議をとおして得た様々な情報を糧として、明日からの学校経営に当たってはいかがでしょうか。

結びになりますが、本大会運営に関わった宮城県、仙台市の皆様、そしてご支援賜りましたすべての関係の皆様、あらためまして深く感謝を申し上げます。

来年度は、東京都において、中学校教育70年記念第68回全日本中学校長会東京大会が開催されます。この記念すべき大会が素晴らしいものとなることを祈念いたしまして、閉会式の挨拶といたします。ありがとうございました。